

## はじめに

学校において、性教育を進める場合、幼児児童生徒の発達段階の特徴や性に関する発達課題を明らかにし、その上で、学校における性教育の基本目標を踏まえ、各学校の性教育の目標を設定し、指導内容を決定する必要がある。

近年、子供の心身の発育・発達の促進化や、子供を取り巻く性に関する情報などの環境の変化により、性に関する発達課題も変化し、また、個人差が一層大きくなっている。各学校における性教育の目標の設定や指導内容の選択等に当たっては、このことにも十分配慮することが大切である。

# 1 幼稚園における性教育の目標及び指導内容

## 幼稚園

### (1) 幼稚園における性教育の目標

幼児期は自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を制御しようとする気持ちが生まれる時期である。

したがって、幼稚園における性教育の目標は、幼稚園教育の趣旨を生かすとともに、第 1 章に示した学校教育における性教育の基本目標に則して、次のように設定することができる。

自分の誕生や男女の違いを正しく受け止めるとともに、生き物の誕生や成長にも気付き、生命の尊さを感じとる。

男女にはそれぞれ違いがあるが、どの友達も同じように大切であることを知り、友達を思いやる心情や態度を育て、将来の男女の人間関係の基礎を築く。

家族は互いに役割を分担し、助け合って生活していることに気付き、男女がいたわり合う心や、そのために自分の欲求を制御しようとする心を育てる。

## 目 標

### (2) 幼稚園における性教育の指導内容

幼児期は、大脳皮質が急速に組織化され、ほぼ完成に近づく重要な時期であるが、性に関する発達の過程では未分化である。最も身近な親子関係を中心とした家庭や幼稚園という場の人間関係を基本に、他人との関係を認識し、自我意識をはぐくみ、知的能力を高め、社会的行動力を身に付けていく時期である。また、この時期の体験は原体験として、その後の人格の形成に大きく影響し、人としての生き方を左右するともいわれている。

したがって幼児期の性教育は、発達課題を的確に把握し、幼児理解を深め、適切な指導や支援を行う必要がある。

### ア 体の発育・発達に伴う性教育の指導内容

身体計測、更衣、排尿や排泄場面等の事象をとらえて男女の体の違いに気付かせ、自分が男の子か女の子かの認識を確かにさせることが大切である。

また、排尿、排泄の習慣やエチケット、体や性器の清潔保持の習慣を身に付けさせる必要がある。

## イ 心理的な発達に伴う性教育の指導内容

大人になると体つきが変わることや自分も少しずつ成長していることを知らせる必要がある。

また、動物や赤ちゃんには父親・母親がいて生まれることに気付かせるとともに、自分の誕生の喜びを感じさせることが大切である。

## ウ 男女の人間関係から見た性教育の指導内容

日常の保育を通して、みんなで仲良く遊ぶには、ルールや約束ごとを守り、我慢したり、助け合ったりすることが大切なことに気付かせることが重要となる。異性間のトラブルに際しては、男女は体や行動の仕方に違いがあっても、それぞれ大切な存在であり、男女の別なく、仲良く助け合うことが大切なことを知らせる必要がある。

## エ 社会的な面から見た性教育の指導内容

家族は男女にかかわらず互いにできる仕事を分担し、助け合って生活していることに気付かせ、自分も家族の一員として協力しようとする心情を育てることが大切である。

家庭と連携しながら、有害情報から幼児を保護するとともに、周りの人の気持ちを考えて、嫌がることをしてはいけないことを知らせる必要がある。また、幼児の言動をとらえ、テレビやマンガで見たことは現実ではないものもあることに気付かせ、見たことをまねて、人が嫌がることを言ったり、したりしてはいけないことを知らせる必要がある。

最近、幼児が凶悪犯罪の被害者になる事件が急増しており、その動機が性的欲望の対象になる事例が多いことから、性被害から幼児を守ることが重要な課題となっている。このため、家庭や地域、関係諸機関と連携し、安全な環境の確保に努めるとともに、幼児に対して、世の中には、自分たちを誘拐したり、危害を加えたりする人がいることを知らせ、被害を防ぐ具体的方法について知らせる必要がある。

